

## ■福島原発事故による影響を原発問題専門家にきく

---

ゲスト：小出裕章先生（原子炉実験所 助教）にきく

聞き手：下村委津子氏（環境市民理事、ECOパーソナリティ&環境カウンセラー）

FM797京都三条ラジオカフェ（運営：特定非営利活動法人 京都コミュニティ放送）

2011年3月22日（火）午後4：00～4：40放送（アーカイブ視聴可）

[http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?content\\_id=66](http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?content_id=66)

（URLは変更があるかもしれません。環境市民のトップページ>東北地方太平洋沖地震情報

>【緊急特番】福島原発事故による影響 原発問題専門家にきく でお探してください）

\*地震に際し、亡くなられた皆様の冥福をお祈りするとともに、被災地の皆様心よりお見舞い申し上げます。福島原発の事態が一刻でも早くがおさまるよう願っています\*

### [テキスト使用の際の注意]

以下の内容は、テキストですぐに内容がわかるようにするために書いたものです。もしテキストを引用される場合は音源との確認を念のためお願いすると同時に、内容の改変はしないでください。また、出典の明記をお願いします。

最後に、この内容は、2011年3月22日（火）午後4：00～4：40ごろ（アーカイブ視聴可）時点の内容です。原発事故関連の情報は必ず最新の情報を入手し、冷静に判断をお願いいたします。

### 【以下インタビュー記録】

下村) 1,2号機で通電というニュースの反面、白煙、灰色がかった煙が出て心配されている。いまは、煙は収まったといわれているが、冷却がすすんでいるという情報の一方で、今後気をつけるべき情報が流されていない。

下村) 通電で冷却がすすむといわれているが、いまの1, 2号機の状況は?

小出) 原子力発電所は、つねに冷やし続けなければならない。ポンプ、電源が必要。今回はすべての電源が失われた。今回通電できることになったのが、事故を止められる大きな手がかかりとなった。しかしポンプがこわれているおそれや、原子炉自体が相当破損しているおそれもある。すでに放射能が出ているので、修理自体が被曝を覚悟での困難となり、

所員の人たちが苦闘している。

下村) 燃料棒が露出しつづけているのか？

小出) わからない。情報が無い。

下村) 露出していればとても危険な状況が続いていると思う。

小出) 私自身、ニュース、東電、保安院による情報しか得られていない。その限りで言えば、原子炉の状況等、詳細はわからない。

下村) 4号機について、使用済燃料をいれているプールも危険な状況にあると考えたほうがいいか。

小出) もちろん。それを抑えようと、放水している。もしかしたらプール自体に破損がないか、と心配している。

下村) 破損していれば水を入れ続ける必要がある

小出) これも被爆を覚悟で放水せざるをえない。一度水をいれて収まればいいが、これからも放水しつづければならないのであれば、作業員の被曝が続くことになり気が重い。

下村) 3号機と他の号機との違いは？

小出) MOX 燃料を使っているところ。通常、原子炉はウランを燃やしている。MOX 燃料は、使用済燃料からプルトニウムを取り出したもの。プルトニウムは、長崎の原爆の原料。プルトニウムを燃やすための原子炉は高速増殖炉「もんじゅ」があるが、故障で使えていない。世界は、原爆材料であるプルトニウムの保持自体を許さない。日本政府は使い道のないプルトニウムは持たないと国際公約をした。しかたないからウランを燃やす設計である福島原発で燃やすことにした。これをプルスーマルという。プルトニウムは、ウランに比べて20万倍毒性が強い。これが外に出れば被爆の量も増える。ウランでもすでに膨大な放射能があり、プルトニウムで危険性が飛躍的にますとは考えない。原発自体がとてつもなく危険性が強いものである。ただ危険性が増えることは確か。

下村) 3号機の格納容器圧力が強まり、それを下げるために直接蒸気を出すという報道も一時なされたが、そうなったら大変では？

小出) しかし圧力が強まってくれば出さざるを得ない。出さなければ格納容器が破壊される。中の圧力を下げ、最悪の結果を免れるためにせざるを得ないこと。ただし、圧力が下がった事自体が不思議なことだ。原子炉の発熱がつづいており外部からの冷却機能がなければ熱は上がるので圧力は上昇するはず。それが減ったというのは格納容器に損傷が生じたのではないかと疑っている。その結果、放射性物質が出てきているのではないか。

1. 2. 4号機はウランが燃料。3号機は燃料の5%程度がプルトニウム。現在の原子炉の中の状況は正確には不明。私が行った空気の分析の結果、検出できた放射能はヨウ素、テルル、セシウムだけ。これらは揮発性のもの。そこから推測すると、燃料棒の大部分が溶けているとは考えない。ウラン、プルトニウムは不揮発性(揮発性が低い)。よってこれらが外部に出ているとは考えない。

下村) 3号機のプールの水位の加熱を考えると先は長い。収束にはいつになると推測されるか

小出) 通電により希望は見えてきたが、電源だけではだめ。通電してから数日たつが、まだポンプが動かないのは、機器自体に損傷がある可能性がある。また被曝しながらの作業であることも心配だ。どうやってすすめていくのか、どれくらいかかるのか、今は推測できない。しかし、これを乗り越えられなければ、破局にいたる可能性もまだあると考える。

下村) 放射性物質は外に出てしまっている。雨に含まれていたという報道もある。微量でも防護は必要だ。原発周辺は当然のこと、日本全国、世界にまで波及する問題。関西ももちろん影響を受ける。関西にも放射性物質がやってくると考えるべきか。

小出) 事故がどの程度で収束できるかにもよってくる。1986年、チェルノブイリ事故では地球の反対側にある日本にも届いた。一度大量に放射性物質をだしてしまえば地球全体が汚染される。ただし汚染の程度については、原発周辺に比べれば関西の汚染レベルは低いのは事実。

下村) 拡散のシミュレーションがウェブサイトで画像で見られるようになっているが、日本政府からは出されていない。

小出) シミュレーションはすでにできているが、情報が抑えられている。

下村) 情報によっては早く対策を取るべきこともあるのでは。

小出) パニックを煽ることになる、というのが政府の考えだと思う。早く情報を出すべきだと思う。

下村) 国に対して声を上げていくべきではないか。

---

Q 「破局」とは？

A 現時点では、原子炉の中の燃料棒は大規模には壊れていないと推測している。なんとか放水で炉心の冷却をしてきた効果だが、完全に冷やせないでいる。もしそのせめぎ合いが悪い方に進んで、炉心が大規模に溶けたら、圧力容器が壊れ、圧力容器が壊れれば格納容器が壊れる。そうすれば放射能を留めるものがなくなるので、とてつもない量の放射性物質が出てしまう。これが私の言う「破局」。格納容器の圧力を抜くのにいくつかの弁があるが、弁を開ければ放射能が出される。破局を免れる方法は、原子炉を水で冷やせるかどうかにかかっている。

Q 破局に至る可能性は？

A わからない。原子炉の状況がわからないなかで、いい方向に考えていくべき情報がない。

Q 最後にコンクリートで固めることになるのか？

A いまそんなことを議論している時ではないが、汚染を取り除かなければならない。チェルノブイリは石棺で閉じ込めるという方法をとったが、それに似通った方法を取らざるを得ないのではないか。

---

下村) まだ予断がならないということをお伝えできたのではないか。被災地から離れたいと思っても離れられない人もいる現状もある。福島方面へボランティアへいきたい、という方もいらっしゃるでしょうが、出来る限りの防御をしていただきたい。環境市民のウェブサイトにも防御の方法を掲載しているので自分の身は自分で守ってもらいたい。その他の情報もウェブサイトで様々な情報を掲載している、過去の番組も見られるようになってるのでぜひ参考にきいていただきたい。

(記録：風岡)